

# 北朝鮮をめぐる情勢と日米韓の対応

伊豆見 元（東京国際大学教授）

## 1. 第7回労働党大会開催の決断

- 金正恩指導部にとってはきわめて重い意味を持つ
  - 過去36年間出来なかったことをやるには相当な覚悟が必要
- 今回の党大会は、金正恩にとっての「金日成生誕100周年」を意味する
  - ・磐石の権力基盤
  - ・十分な対米抑止力
  - ・南北共存の制度化と韓国からの支援獲得
  - ・以上を前提に経済建設と人民生活向上を図る（金正日の言う経済強国建設）
- 過去4年間、本格的な経済建設に踏み切れなかった理由
  - ・金正恩の権威不足（指導部の不安）
  - ・対米抑止力の不足と
  - ・韓国にたいする抑止力を持つことが出来ず
- 2016年5月初旬に開催日を設定したのは、対韓国関係改善を切望するため
- 核実験(1/7)と長距離弾道ミサイル発射(2/7)は、「十分な対米抑止力」確立のため
- 好戦的言辞と軍事的威嚇（2月から3月にかけて）は、金正恩の権威を高めて「磐石の権力基盤」を築くため

## 2. 党大会開催のための条件整備

- 国際社会の圧力をはね除け、米国の侵略を未然に防ぐ金正恩の能力を喧伝
  - ・金正恩の権威強化
  - ・同時に「明るい展望」を描くことの出来ない理由作り
- 核能力の向上を図る
  - ・1月6日 4回目の核実験敢行（水爆実験と主張）
  - ・2月7日 長距離弾道ミサイル発射
  - ・3月15日 大気圏再突入模擬実験成功と報道
  - ・3月24日 固体燃料ミサイルエンジンの地上燃焼実験成功と報道
- 「プルトニウム型」から「濃縮ウラン型」への転換？
  - ・プルトニウムのストック
  - ・中国の懸念への考慮
  - ・「濃縮ウラン型」への転換 問題は小型化だがAQカーンからすでに「高濃縮ウラン弾頭デザイン」と「実験データ」を入手している可能性あり

## 3. 日米韓の望ましい対応

- 圧力強化だけでは、再び失敗を繰り返すのは不可避
- 二つの可能性を潰す
  - ・韓国が核武装に向かう可能性（1月13日の朴槿恵発言）
  - ・「汚い爆弾」と「即席核爆弾」が使用される可能性
- 必要なのは「適切な圧力」に支えられた「巧みな外交」
- シグ・ヘッカーの「スリー・ノーズ」(no more bombs, no better bombs, no export)
- ビル・ペリーの「いまあるままの北朝鮮を相手に」(We must deal with NK as it is)
- (1) 非核化を究極の目的として掲げる
- (2) 核凍結（プルトニウムと濃縮ウラン）+核実験およびミサイル発射モトリアム
- (3) ロール・バック（現有の核兵器・核計画・核物質の漸次削減）
- (4) 北朝鮮の核放棄
- それぞれの段階で北朝鮮にたいするインセンティブが必要
  - ・いわゆる「平和協定問題」については、「休戦状態の終結」と「恒久的平和体制の構築」を二つの段階に分けて考える
  - ・日米韓+中国+ロシア